車とパソコンと古寺巡礼

「敏翁」の旅行も始まってから来年10年目に入ります。
この旅行の原点は、車を利用した古寺巡礼です。
それを、本題『車とパソコンと古寺巡礼』という切り口で纏めてみたのがこのページです。
本稿は、私の大學(東大・冶金学科)同期会の会誌(冶金らしい「SLAG」という名)の卒業 50 年記念号(今年3月がそうなります)に投稿したものをベースにして、加筆訂正 pdf化したものです。

１．古寺巡礼と車

私にとって、古寺探訪は大分歴史がありますが、巡礼旅として纏まったものの初めは、昭和54年11月の秩父34観音巡礼でした。
当時のことを振り返って見ると、その前年、株(東芝)で、LSI事業の責任者になっていた私は、大型投資の問題などで会社のトップと大喧嘩をしてしまい、事業部を追い出され、中央研究所の技監をやっていました。
研究所の中には、住み辛く思っていた所、関連会社の東芝セラミックス㈱に行く話が決まった時でした。(ここには翌年1月から移り、現役最後まで約14年居たことになり、今でも多少の関係を持っているのです。)
ちょうどその夏、ミニバイクの免許を取った事もあり、気分一新を図り、ある種の祈りを込めて秩父34観音のバイク巡礼を考えたのでした。
ミニバイクにした主な理由は、当時の私は喧嘩早く、人の話に聞く自動車教習所の教官の態度では、教官を殴りつける程度のことはし兼ねない恐れがあったので、自重して学科試験だけのミニバイクにしたのでした。
右の画像は、当時の私ですが、バイク用のジャンパー姿を見ると本当に若く元気にも溢れているように見え、感慨も一入です。
これが、私にとっての巡礼/遍路の始まりで、その後昭和61～62年に、ミニバイクで3回に分けて四国88ヶ所を回ったりしました。
ここまでが現役時代の話です。
平成5年6月、役員を退任した私は、その11月には自動車の運転免許を取り(私も少しはおとなしくなった事も有り、又教習所の教官達も変ったのです)、翌年雪が消える4月を待って秩父を回って山道の運転になれ、5月に、四国88ヶ所を回りました。
これが、一連の巡礼旅行シリーズ即ち、国内では、西国33観音、坂東33観音、海外では、サンティアゴ・デ・コンポステイラへの巡礼に繋がって行くことになるのです。　後ほど、四国遍路とサンティアゴ巡礼についてはやや詳細に記す事にします。

２．パソコンの活用(plan, do, see)

前述の巡礼/遍路の旅行記の大部分は、敏翁のホームページでご覧になる事が出来ます。
http://www32.ocn.ne.jp/~toshiou/　です。
尚、「敏翁(toshiou)」とは、現役引退後、パソコン通信やインターネットで使っている私のニックネームで「翁」となって世の中を達観して生きてゆきたい、大所高所から見たメッセージを発信して行きたいとの願いを込めてつけたものです。

私とパソコンとの付き合いについては、「SLAG(40 周年記念号)」にも記しましたが、現役引退後はパソコンの急速な機能の向上、応用範囲の拡大に合せて、私のパソコン活用範囲も大幅に拡大しております。

前ページの図は 3 年程前の自宅のパソコンルームの状況です。

現在は、もっと沢山の機器が乱雑に置かれていて、纏まった写真も取れないほどの状況になっております。

写真左の PC9801VX<8MHz>が最初に購入した機器で、その後主力機器もその隣の PC9821Xa10<100MHZ>から現在では、写真にはない ValueStar-NX<750MHz>にグレードアップしています。(いずれも NEC 製)

その間の性能向上はは 8-->100-->750MHz と約 100 倍(値段は殆ど変りません)に及んでいるわけです。

私のパソコンの利用範囲は、科学技術計算から、画像処理、動画編集、インターネット・ホームページ作成と拡大を続けていますが、ここでは、旅行を自分流に計画(plan)、実行(do)、纏め(see 旅行記、ホームページ作成)を行う事に限って記す事にします。私の導入したパソコンなど電子機器と、遍路／巡礼の旅を年表の形に纏めたものを次に示します。

敏翁　「車とパソコンと古寺巡礼」関連年表

年	パソコンと国内旅行	海外旅行
1993(平成 5)	現役引退、車免許取得　*1	---------
1994	秩父 34 観音巡礼、四国遍路*	---------
1995	PC　9821Xa10(100MHz) 坂東 33 観音巡礼	スペイン(サンティアゴ巡礼とロマネスク探訪) *
1996	西国 33 観音巡礼*、出羽三山* 坂東 33 観音巡礼	南仏、カタロニア(サンティアゴ巡礼路、ロマネスクとカタリ派遺跡探訪) *
1997	ﾐﾆﾉｰﾄ PC　Libretto(60MHz)*2 西国 33 観音巡礼*	フランス(黒マリア、サンティアゴ巡礼路とロマネスク探訪) *
1998(平成 10)	「敏翁」のホームページ発足	イタリー(古寺と美術探訪) *
1999	デジカメ導入 琵琶湖畔 11 面観音巡拝	イタリー(カラヴァッジォ探訪) *
2000	PC　ValueSatarNX(750MHZ)	フランス、ベルネックス(ゴチック大聖堂と美術探訪) *
2001	ﾐﾆﾉｰﾄ PC　Libretto L(600MHz) デジタル・ビデオ導入	中国(北京、長沙、上海) *
2002(平成 14)	秩父 34 観音午年巡拝*	中国(武漢、大連、鞍山、瀋陽) *

*　ホームページに掲載されています。

*1　パソコンは数年前からデスクトップは PC9801VX(8MHz)、と 2 年前からノート型(30MHz)を使用中。

*2　Libretto 利用技術コンテストで優秀賞を受賞。賞品は東芝製のパソコン Vision Connect(160MHz パソコンルームの左から 3 台目に見える)

車とパソコンの有機的活用について触れると、旅行前に大量の参考書を図書館などで借り、それを車で自宅に持ち帰り(美術関係の豪華本などはかなり重い)、それを片端からスキャナーでパソコンに取り込みました。(文字は OCR で取り込み)

1995 年のスペイン旅行の前には、車で、国会図書館、桜木町・紅葉坂にある神奈川県立図書館、横浜市立図書館とよく通い、５０冊以上の書籍のテータを取り込みました。この年は、それの必要部分をプリントして持っていったのです。

又 96 年、97 年の旅行では、上記図書館の他にフランス語のロマネスク美術の大全集であるゾディアック叢書（全６０巻以上からなるロマネスク美術関係では最も権威ある参考資料で、各々150 図程度の大きな写真（その約９０％は黒白）を含む）を「日仏会館」(恵比寿ガーデン・プレースのそばにあり、フランス語の書籍４万５千冊を持つ。1997 年からはそこの会員になっている)

から借用、画像はスキャナで取り込み、そのフランス語の必要部分は、欧文用 OCR で取り込んだ後、自動翻訳ソフト Power Translater （仏・英版）〔Globalink 社 〕を利用して英語に翻訳したものをプリントし持参しました。(97 年以降はLibrettoに取り込んだ)

お恥ずかしい話ですが、にわか勉強のフランス語力では、英文を読む速度の
1/10 以下でしかフランス語の論文を読む事が出来なかったのが、この自動翻訳の力を借りて 1/3 程度までアップする事が出来ました。

読み込んだ画像の数は、全体で 1200 を超えます。

本の重量で言うと、読み込んだ本の全重量は２０ｋｇ近くになりました。

以上の利用技術とそれを旅行先で如何に活用したかについて纏めたものを、1997 年春東芝から新発売されたミニノートパソコン Libretto の利用技術コンテストに応募し、優秀賞を受賞しましたが、入賞者(全部で１０人)で 40 歳以上は私一人でした。前頁の図は、その表彰式の写真、前列左から 3 人目が私です。(ﾘﾌﾞﾗｰとはLibrettoを活用する人の意味らしい)

しかし、いくら事前に調べて行っても、現地訪問で又疑問点が続出します。それらを帰国後、又図書館で調査し、旅行記に纏める事にしています。　この作業は、しんどい事も多いのですが、文章化する事で頭の中も整理され、見えなかった事が見えてくる事もしばしばです。

初めは、それらをパソコン通信(nifty-serve、と PC-VAN)に投稿していましたが、インターネットが盛んになった 1998 年からは、ホームページ(URL は上記)に掲載する事にしています。

３．四国８８ヶ所ドライブ遍路

1994 年(平成６年) ５月、16 日ばかりかけて、四国８８ヶ所ドライブ遍路を行いました。

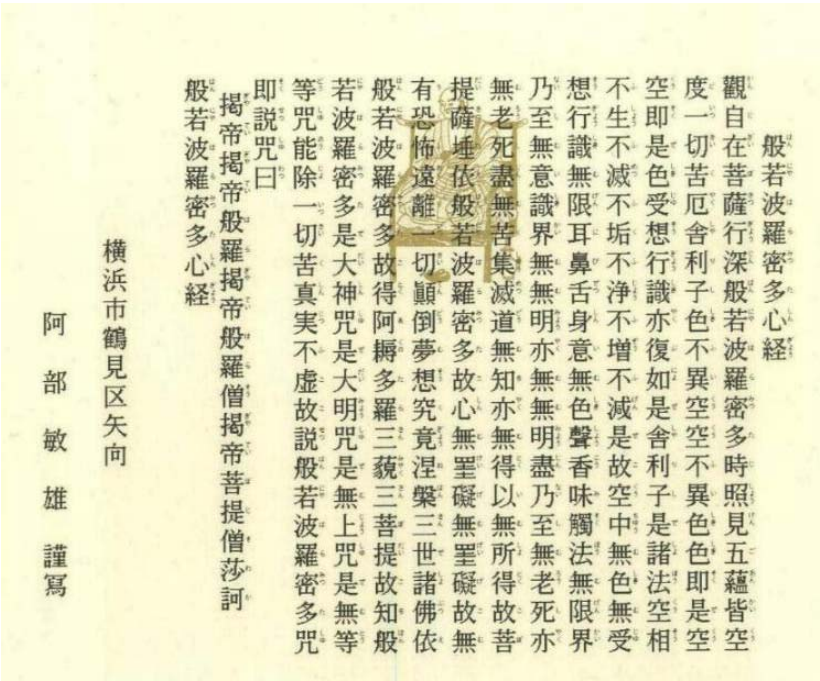
有明からカーフェリーで徳島に渡り四国を一回りしたのです。

お寺に参拝の時は、写経を奉納する事としました。

写経は、精神を統一し、姿勢を正して筆で行うのが正しい方法ですが、私は、Ａ４の用紙(横置き)の中央に、弘法大師の尊像を金色でプリント（オリジナル図をイメージスキャナーでとり、多少の修正、サイズの調整後、熱転写プリンター ＋ 金色テープでプリント)、その上から般若心経を黒でプリントしたというものです。

尚、般若心経の用字には JIS 第２水準にも無い字が２字ある。これは外字を作りました。以上、結構手間が掛かっているので、仏様も変わった写経だなと許してくれるのではないかと、勝手に思っています。(下左図参照)

お寺の宿坊にも何回か泊めてもらいましたが、下右図は、その一つ、六番　安楽寺境内にて翌朝撮った和尚との記念写真です。


般若波羅密多心経

観自在菩薩行深般若波羅密多時照見五蘊皆空
度一切苦厄舎利子色不異空空不異色色即是空
空即是色受想行識亦復如是舎利子是諸法空相
不生不滅不垢不浄不増不減是故空中無色無受
想行識無限耳鼻舌身意無色聲香味觸法無限界
乃至無意識界無無明亦無無明盡乃至無老死亦
無老死盡無苦集滅道無知亦無得以無所得故菩
提薩埵依般若波羅密多故心無罣礙無罣礙故無
有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依
般若波羅密多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般
若波羅密多是大神呪是大明呪是無上呪是無等
等呪能除一切苦真実不虚故説般若波羅密多呪
即説呪曰
掲帝掲帝般羅掲帝般羅僧掲帝菩提僧莎訶
般若波羅密多心経

横浜市鶴見区矢向
阿部敏雄謹寫

４．サンティアゴ・デ・コンポステーラ　ドライブ巡礼とロマネスク探訪

ブルゴーニュの修道士ラウール・グラベールが１１世紀の中頃に，「千年を過ぎると，ヨーロッパは至るところで教会の白い衣を着けた」と記しています。ほとんどすべての聖堂，村々の礼拝堂がいっせいに再建され，真新しい白壁で覆われたのでした。

神の審判の年である紀元千年の到来に，民衆はおびえていました。

しかし、１１世紀になっても何も起こらず平穏な生活がつづき、民衆はこれこそ神のご加護によるものとよろこび、神への感謝のしるしとして聖堂を奉献することが始まったともいわれます。この聖堂つまりロマネスク様式聖堂の建設の波は，イタリアから，フランス，スペイン，北欧にまで波及して行き、たとえばスペインのカタロニア地方だけでも１１，１２世紀に建設された聖堂の数は２千件にもなったといいます。そのうち何らかの形で現在も生きつづけている聖堂や修道院は４００件以上にのぼるようです。

キリスト教世界で巡礼が始まったのは、中世初期にさかのぼります。

エルサレム、ローマ、スペイン北部ガリシア地方のサンティアゴ・デ・コンポステーラ（以下サンティアゴと略記）の三大聖地の中、サンティアゴは伝説と奇蹟に満ちた霊場でありました。

ときは９世紀、スペイン北西の果てに聖ヤコブ（スペイン語でサンティアゴ、フランス語でサンジャック）の遺体がみつかったという噂がひろまったのです。

当時のスペインはレコンキスタ（国土回復運動）のただ中にありました。聖ヤコブの最初の奇蹟は，スペイン北部のクラビーホで起ったのです。イスラーム軍との戦いのさなかに突如白馬に跨った騎士姿の聖ヤコブがイスラーム軍を蹴散らして，劣勢のキリスト教軍を勝利に導いたというのです。

この奇蹟によって聖ヤコブへのスペイン人の思いは確かなものになって行き、やがて聖ヤコブはレコンキスタの守護聖者、ひいてはスペインの守護聖者となったばかりか、異教徒と闘う聖者として十字軍の精神的支柱とさえなっていくのです。

聖ヤコブ伝説は中世におけるサンティアゴ巡礼の流行を生んだ最大の原因となったのでした、その一方で中世初期いらい西ヨーロッパでブームとなっていた聖堂建設運動にも火を点けることになるのです。（上図はサンティアゴ大聖堂の前に立つ私）

サンティアゴへの巡礼では、フランス国内を通過する四つの重要な路が形成されました。（右図参照）

（１）ベルギー、オランダからの巡礼者が集まるパリ近くのサン・ドニ（◎）からピレネーに向かうもので、途中トウール、ポワティエ（●a）、サントを通る路。

（２）スカンジナヴィアやドイツからの巡礼者のためのもので、ブルゴーニュ地方のヴェズレー（◎）を出発点とし、リモージュを通過して，やがて（１）と合流する路。

（３）東ヨーロッパや南ドイツの人々を導いてル・ピュイ（◎）を出発し、コンク（●b）、カオール、モワサックを経て、オスタバで先の二つの巡礼路と合流する路。

以上（１）～（３）は、ピレネーのイバニェタ峠を越え

て、パンプローナを経てプェンテ・ラ・レイナ（●d）（王妃の橋）に至ります。
（4）主としてイタリアからの巡礼者を集め，アルルを出発し地中海沿いにトウールーズ（●c）を経て，ピレネーのソンポール峠を越え，ハーカを経由してプェンテ・ラ・レイナに至る路。
そしてプェンテ・ラ・レイナからは、一本道でサンティアゴ(□)へ向かうのです。
サンティアゴへの巡礼は１１世紀にピークを迎え、その数も年間５０万とも１００万ともいわれるほど盛んでありました。そしてその時期は丁度ロマネスク美術の最盛期に当たるのです。
四国ドライブ遍路や坂東33観音ドライブ巡礼で自信をつけた私は、範囲を広げて日本以外の巡礼について調べていく中にこのサンティアゴ巡礼路の存在を知り、これもドライブ巡礼一人旅で踏破したいと云う意欲が湧いてきました。
しかし、サンティアゴ・ドライブ巡礼一人旅は、異国での始めてのドライブの他にも言葉の問題がありました。
この巡礼路は、このようにフランスからスペインに伸びているのですが、フランス語、スペイン語の全く解らない私として、９５年スペイン語の初歩を学んでスペイン、９６年には更にフランス語の初歩を学んでフランスを訪問という基本計画を設定したわけです。(地図で赤い印の付いた所は、アルルを除いてすべて訪れています。)

4.1　1995年　スペイン

５月８日からレンタカー一人旅で、３週間、走行距離は約3300kmでした。
交通規則が全く異なる国で、初めてのドライブに不安があり、初めのところだけ、東芝の関連会社ＴＩＳイスパニア（マドリッド）の社長Ｙさんにアドバイスを受けました。
マドリッドで運転の要領を会得後、飛行機でセビリアに飛び、レンタカーを借り、コリア・デル・リオ訪問【下記②「祖先の歴史探訪」参照】後、コルドバ、グラナダと車で回り、グラナダから飛行機でバルセロナに飛びました。
そこで又レンタカーを借り、カタロニアのロマネスク探訪【下記①「ロマネスク古寺巡礼」参照】を行いました。
ロマネスクの寺々は、片田舎にある事が多く、それらを効率的に回るには車の利用は不可欠だと思います。
次にバルセロナからパンプローナに飛行機で飛び、そこを起点にしてレンタカーにてスペイン内の主要な サンティアゴ巡礼路をすべてまわり、サンティアゴに至りました。大聖堂（パンプローナ、ブルゴス、レオン、サンティアゴなど）も素晴らしいが、田舎の小さな教会を訪れると、本当に心が洗われる思いがしました。(図はサンティアゴ巡礼路の小さな教会)

参照①「ロマネスク古寺巡礼」

上記 サンティアゴ巡礼路を調べていくと、巡礼路が作られていく時代が、ロマネスクの時代に重なっている事が解ります。
その時代の美術がサンティアゴ巡礼路と共に、豊富に且つ魅力ある特徴を持って残されていると言われるカタロニアに、ロマネスク美術を訪ね、当時の人々の心に触れてみたいと思った訳です。
バルセロナを起点にして、その北方をレンタカーで回りました。
又、バルセロナにあるカタロニア美術館は、ロマネスク美術の収集では、世界一と言われています。期待して行ってみると改修・閉館中でした。これが翌年再びカタロニアを訪れる誘因の一つになりました。

参照②「祖先の歴史探訪」

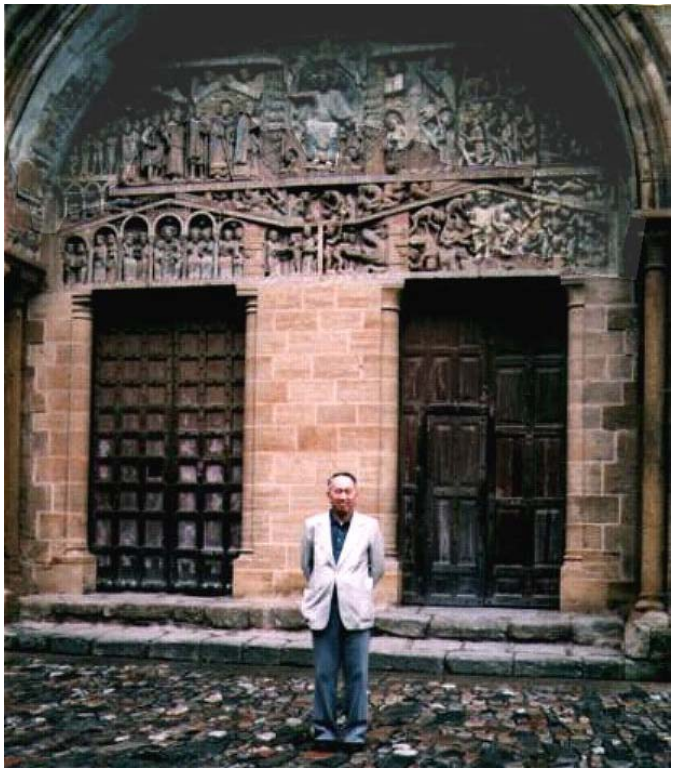
折角スペインに行くのであるから、アンダルシァも訪れたいと思いました。それで調べている内に、セビリヤ近くのコリア・デル・リオに「ハポン（＝日本)」と言う姓を持つ人々が約900人居る事を知りました。支倉(ﾊｾｸﾗ)常長の部下の人々の一部が残り、その子孫と信じられているようです。　この辺の事情は、逢坂剛著「ハポン追跡」に詳しく紹介されています。
となると、ここにも行って見たくなりました。

と言うのは、私の母方の先祖が常長の従士として「遣欧使節」に参加していたらしいと言われているからです。この事は、樫山巌著「支倉常長の総て」 金港堂に出ています。尚、樫山氏は、宮城県柴田郡川崎町（私の父母の出身地）大字支倉（常長の領地であった）におられる郷土史家です。（右図はコリア・デル・リオ町　グアダル・キビール河畔に建つ支倉常長の銅像の前に立つ私）

4.2　1996 年　南仏・カタロニア

４月 23 日からレンタカー一人旅で３週間、南フランス・ラングドッグ及びルシヨン地方とスペイン・カタロニア地方を走行距離約 3000km 程走り回りました。

先ずトゥルーズに入り、そこからレンタカーでサンティアゴ巡礼路の　モアサック、ロカマドール、コンク等を訪問。（下左図はコンクのサント・フォワ教会の正面玄関の前に立つ私。右図は、その宝物館に収められている中世に奇跡を続出したと伝えられる聖女フォワの聖遺骨を納めた黄金像）



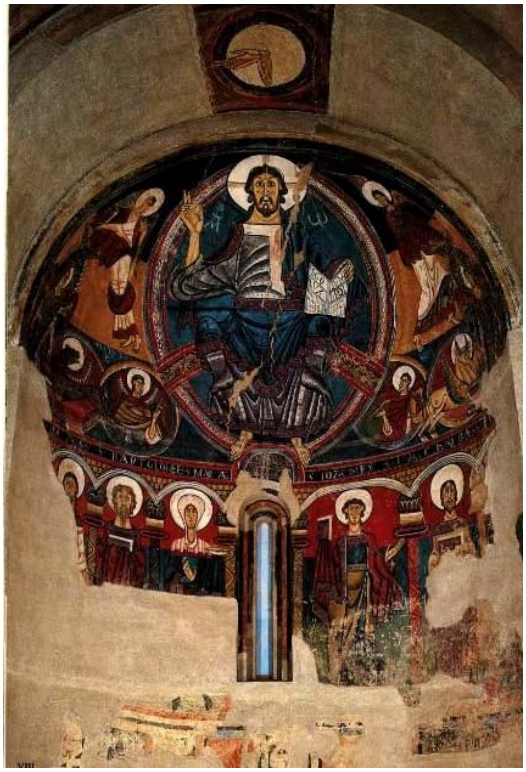
この年のもう一つのテーマは、かってラングドッグで盛んだった異端「カタリ派」の遺跡（アルビ、カルカソンヌ、ピルペルトュズ城、モンセギュール等）の探訪でしたが、ここでは紙数の関係で省略します。

ロマネスク美の探訪は、上記サンティアゴ巡礼路と重複するが、その他ルシヨン地方の寺々を訪問。（フノヤール、キュクサ、カニグー、セラボンヌ、エルヌなど）。
それから残雪の残るピレネーを越えアンドーラのロマネスクを訪れた後、スペイン・カタロニアに入りました。

カタロニアでは、主にピレネーの南麓の小さな教会にロマネスクの美を訪ねました（タウル、ビェラ、イシル

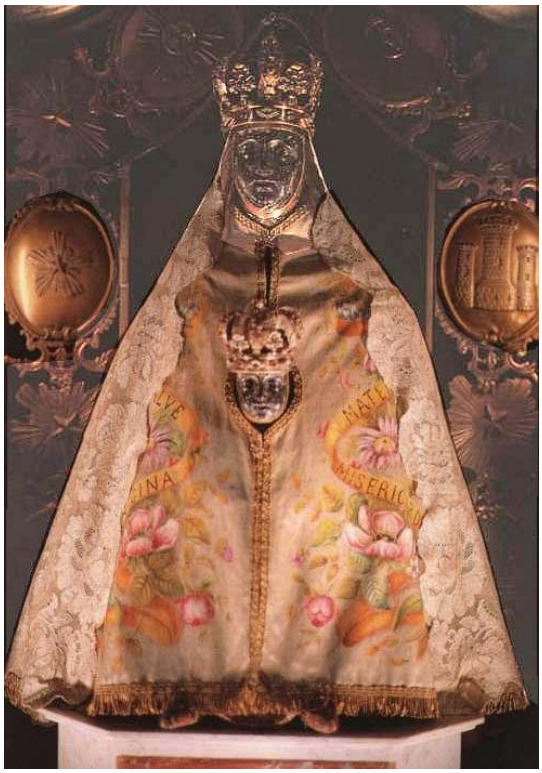
など)。

最後に、バルセロナのカタロニア美術館を訪問しました。
ここには、カタロニア地方の小さな教会に残っていたロマネスクの壁画などを多数そのままの状態で展示してあり、ロマネスクの美を満喫する事が出来ました。
（下左図はタウル、サン・クリメント教会。右図はその内陣の壁画「栄光のキリスト」高さは７．７ｍあり、現在実物はカタロニア美術館にある）



4.3　1997 年　フランス

５月 19 日からレンタカー一人旅で３週間､リヨンからフランスを横切ってボルドーまで約 3500km 程走り回りました。
サンティアゴ巡礼路の出発地として重要なル・ピュイ、ヴェズレーなども回りましたが、この年のメインテーマは「黒マリア」を捜し求めての旅でした。
「黒マリア」には馴染みのない方も居られると思い簡単に紹介します。



この地、ガリアのケルト族の地母神像が黒マリアの起源でしょう。
ユングによる元型（archetype）としての太母（great mother）が地母神だと思いますが､それは『地なる母の子宮の象徴であり、すべてのものを生み出す豊穣の地として、あるいは、すべてを呑みつくす死の国への入口として、常に全人類に共通のイメージとして現れる』(河合隼雄「ユング心理学入門」培風館）のです。即ち、ケルト族だけでなく、エジプトのイシス神、ギリシャのデメーテルなどどこにでも見られるものなのです。　（右図はル・ピュイの大聖堂内陣にある黒マリア）

これらは、父権的宗教であるキリスト教の支配が強まる中で、

抑圧されて行ったが、元型は当然ながら取り去ることは出来ません。そればかりではなく、民衆の反抗が始まるのです。黒マリア、聖母子像が教会の中に入っていくのです。これがノートル・ダームへの熱烈な信仰となり、フランス中にノートル・ダーム寺院が建立されることになっていくのです。

その中で、聖母子像の性格も又変わって行きます。

君臨し審判する父なる神よりも、神にもっと優しさを求めた民衆の願望が聖母をより高みへ、「神の母」から「母なる神」へと変貌させたのでした。

そして正統カソリックの立場は、それを後から追認するのに終始したのです。例えば、「聖母の無原罪懐胎」が教理として正式に認められたのは 1854 年のピオ９世の教皇令によってであり、「聖母被昇天」が教理となるのは更にそれから１００年後、1950 年のピオ１２世の教皇令によってなのです。

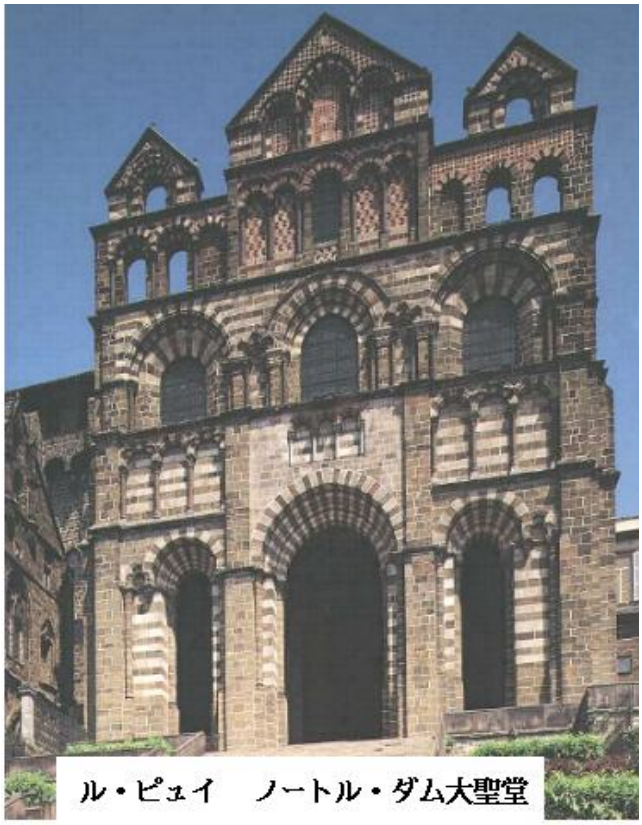
この大きな変化は正統カソリックの神学が成したことではなく、人間の心の奥底にある「普遍的無意識」が成したと云って良いのでしょう。

このような興味ある「黒マリア像」が今でも民衆に守られて保存されているのを見て回りたくなったのでした。

尚、黒マリアの詳細については、田中仁彦「黒マリアの謎」　岩波書店　1993
が大いに参考になりました。

下左図は、ル・ピュイの大聖堂の西正面で、アラブの強い影響を見ることが出来ます。

下右図は、ヴェズレーのサント・マドレーヌ教会の柱頭のひとつです。



ここは沢山の優れた柱頭彫刻でも有名で、ここに掲げたものはそのなかで宗教性の最も高いとされている『神秘の粉挽き車』の柱頭です。マントを羽織り膝までの衣を着て靴を履いているのは預言者モーゼで、彼が入れつつある穀物は、シナイ山で受け取った旧約の教えです。神秘の粉挽き車は、十字を付けた車輪が示すようにキリストが受難によってその粒を挽き砕き、潰して粉にする。粉を袋に受けるのは聖パウロで、裸足で長衣を着て、額が禿げあがっています。粉は，当然新約の教えであり、彼が伝道に当たるという極度に象徴的な表現なのであります。

５．その後

旅は、このようにしてその後も毎年続くのですが、紙数の関係もあり、又ここからは古寺巡礼のウェイトが減っていくので私の旅の紹介はこの辺で留めます。

ただ、パソコン、ITの性能はその後も飛躍的に増大して、2001年からは日本のインターネットもブロードバンド時代に突入しました。
私も、この年ADSLに加入し、デジタルビデオカメラを購入し、旅行で撮影した動画をパソコンで編集して、ホームページに掲載を始めて居ります。
2001年と2002年の中国の旅には、十数編の動画が載っていますので、ブロードバンドに対応している方は、一度ご覧になって見て頂きたいと思います。

今まで書き溜めた旅行記は、総文字数で、70万字を越え、挿絵の画像もカラー主体で1000を越えるようになっています。(そのほんの一部をここで紹介したわけです)
そのいくつかは、全体が大量のカラー画像を含む一つの大きなドキュメント(巻物風）になっている為、ホームページに掲載しても、普通の電話線の環境では、閲覧が困難な為、今まで掲載を控えていましたが、ブロードバンドの普及も爆発的に進展している状況を踏まえ、最近掲載に踏み切りました。
これで、ホームページで「敏翁」の旅行の全容がご覧になれる事になったと思っています。

この旅行記は、私が書籍に出来るような規模を遥かに越えているので(大量のカラー画像を含んでいるので、まともにやったら何百万円かかるか分からない)、これをCD-R化(『敏翁の旅行記 CDR版』)しております。(これなら一枚当たりの直接原価は100円程度)

CD-Rでは、文章は勿論、高品質のカラー画像のほか、音楽、動画も簡単に掲載出来るので、これからの個人ベースの情報発信の主体は、書籍出版からCD-Rに変るのではないかと思っています。
因みに、今回のSLAG　記念号は、カラー画像も相当入っていますが、それでも全体では15MB程度の記憶容量しか使っていませんので、CD-R（一枚の記憶容量700MB）には、この40倍以上の内容を収容できる事になります。

パソコンをお持ちでご興味のある方にはこの『敏翁の旅行記 CD-R版Ver.5』を進呈いたしますので、遠慮なくお申し出下さい。(ブロードバンド非対応の方にはこちらがお薦めです)